

美しいまち並みをつくり出すために

大規模建築物等の届出制度の紹介

LANDSCAPE FUKUOKA
第一
 都市景観とは何か？



大規模な建物や工作物は、都市景観に大きな影響を与える。福岡市では、1988年に「大規模建築物等の新築等の届出制度〔註1〕」をスタートし、届出のあった建物などが、地域の景観をリードしているが、まち並みと調和しているか、周辺環境に配慮しているか、シンボル性はあるかなどについて、7年間で1000件をこす協議をおこなってきた。本誌では、これらの協議によって得られた成果をより多くのおみなさんに知っていただき、まちづくりに携わる人々の新たな試みや努力がさらに広がっていくことを願い、事例の一部を紹介していく。

福岡ダイヤモンドビル

福岡ダイヤモンドビルは、旧三菱銀行福岡支店ビルの老朽化にともない、都心部における高度利用を目的として計画された銀行および事務所ビルである。旧建物は銀行らしい風格のある石造りの近代洋風建築で、そのシンボル「愛の鐘」とも



当初の計画案
 ガラスと石および金属パネルのグリッドで構成されたファサードで、明るく軽いデザインで表現されている。



福岡ダイヤモンドビルの全景
 低層部は石造の柱と独立柱のようにきわだたせ、上層部では石とガラスカーテンウォールのすっきりとしたデザインで構成されている。

に福岡市の中心・天神地区の顔として市民に親しまれてきた建物であった。

この建物は、天神地区のメインストリートである渡辺通りと明治通りの交差点にあり、福岡の都心の顔として景観形成の視点から特別の配慮が必要と考えた。そこで都市景観室では、都市景観アドバイザー〔註2〕の助言も受けながら、①都市の顔としての風格と活力が表現された魅力的なシンボルとなつていくか②角地の重要性や象徴性が十分表現されているか③「愛の鐘」に代わるものとしての円筒型塔屋のデザインは適切か、などについて検討をおこなった。その結果、当初計画案の明るい軽快なデザインは十分に評価できるものであったが、天神の交差点にふさわしい風格や活力を生み出す建物となるよう、より一層の工夫を求めることになった。都市景観室と事業者および設計者との協議をつうじて、事業者からも福岡市におけるこの建物の重要性があらためて認識されることとなり、設計者によってさまざまなデザインの検討がおこなわれた。きびしいコストの壁をのりこえて、最終的にはアドバイザーにも評価された石とガラスのコンビネーションによる「伝統・風格・重厚」と「現代・清新・軽

■建築概要

主 用 途	銀行、事務所
所 在 地	福岡市中央区天神1丁目12番7号
事 業 者	ダイヤモンド不動産株式会社
設計監理者	三菱地所株式会社
施 工 者	株式会社竹中工務店、戸田建設株式会社、清水建設株式会社、三菱建設株式会社（建設共同企業体）
竣 工	1993年12月
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造、地下2階地上9階



南側ロビーと吹き抜け部分に設置された「愛の鐘」。

「快」とを対比・共存させた現在のデザインにまとまった。

この建物では、屋外広告物やサインの掲出にも十分な配慮がおこなわれ、一般的な商業ビルにありがちな袖看板や壁面広告などは取りやめられ、すっきりとした外観に仕上がっている。また、南側ビロイターの地階との吹き抜け部分にはモニメントも設置され市民に親しまれる空間をつくりだしている。

携帯電話無線基地局の鉄塔

携帯電話の急速な普及にともない、福岡市内の各地域でもその無線基地局として、鉄塔がつぎつぎと建設されていることをみなさんはお気づきだろうか。今回は、その種の鉄塔も少しづつ景観的な配慮がおこなわれてきている事例として、早良区城西に建設された鉄塔について紹介したい。

西新地区は、福岡市の副都心として多様な機能や施設が集積する地域で、楽しさにぎわいのある生活拠点である反面、広告、電柱電線がはらんとしている密集市街地である。今回の計画は、そのような地域のほぼ中心にあたる場所に高さ50m以上にもなる鉄塔を建設するものであった。都市景観室と協議をはじめた当初は、既存高層ビルの屋上利用など、鉄塔そのものを設置しない方向も検討された。しかし、電波エリアの関係でどうしてもこの場所にこの高さで建設することが必

今回建設された鉄塔の全景
上層中ほどに見える4本のリングを
取りつけることによって、鉄骨部材
の煩雑さが軽減されている。



過去の建設例
形態自体のバランスの悪さと鉄骨部材の多さによる煩雑さが目立つ。

要であり、またすでに建設されている建物の屋上に鉄塔をのせなければならなかったため、アンギュルトラス形式〔註3〕で設計が進められた。そこで景観の観点からは、この巨大で煩雑に見えるアンギュルトラス形式の鉄塔をいかにシンプルでスリムに見せるかがポイントとなった。事業者および設計者との協議ではまず、鉄塔全体の形態について検討し、当初4.5mもあった鉄塔の幅を3mへと変更し上層部のスリム化を図った。次に、鉄骨部材の多さによる煩雑さを軽減する検討のなかで、都市景観アドバイザーから鉄塔上層部に円状のリングを取りつける案が提案された。これは画期的なアイデアで、鉄塔上部のポリウム感を少なく感じさせ、さらには鉄骨部材の多さによる煩雑さを軽減するものと考えられた。事業者の賛同も得られ、最終的にはリングの大きさも段階的に変化させる現在の形（写真）にまとまった。

アンギュルトラス形式ではない景観的に配慮されたよりシンプルな構造形式の鉄塔も建設されつつあるが、今回の計画は、限られた条件のなかで多くの人々が知恵をだしあつて景観的配慮がおこなわれた好事例であろう。これまで機能性、経済性のみで設計されがちであったこの種の鉄塔が、今後この西新のささやかだが先進的な試みをきっかけとして、景観により積極的に配慮されるようになっていくことを期待したい。



■建築概要

主 用 途	携帯電話の無線基地局
所 在 地	福岡市早良区城西3丁目22番24号
事 業 者	NTT九州移動通信網株式会社
設計監理者	株式会社NTTファシリティーズ九州支店
施 工 者	福岡電機建設株式会社
竣 工	1995年3月
構造・規模	鉄骨造、高さH=52.1m

〔註1〕
大規模建築物等の鉄塔等の
届出制度

福岡市都市景観条例により、建築主などに届出義務づけ、景観上の助言・指導をおこなう制度。

届出対象

- 高さ31mを超えるまたは延べ面積が1万㎡を超える建築物
- 高さ31mを超える工作物
- 高速道路、高架鉄道、橋梁等で幅が10mを超えるものまたは高さ30mを超えるもの

〔註2〕

都市景観アドバイザー

建築、造園、都市計画、色彩などを専門とする学識経験者によって構成され、重要な案件について意見を強く働きかけられている。

〔註3〕

アンギュルトラス形式

骨組みにL型の断面をした鉄骨を用い、その数を基本的に三角形に作るように組み上げていく構造。建築形態の自由度は増すが、鉄骨部材の本数が多くなる。